

○宮澤愛\* 草野篤子\*\*

(\*長野市立 皐月高, \*\*信州大)

<目的>大学生男女の性関係についての許容度を、①結婚制度との関連、②相手への精神的関わりの程度という2つのレベルから考察し、さらに現在の異性交際、性経験の有無から若者の性行動の実態を捉える。また近年、女子の性行動が許容的になったことについて、性交に対する男女の目的の相違から、住環境を含め、その要因を探る。

<方法>長野県下の4年生大学に焦点を絞り、協力が得られた3大学で質問紙による配票調査を行った。調査期間は1999年10月29日から11月11日の2週間。標本数750、回収数742(回収率98.9%)、有効回答数633(有効回答率84.4%)。先行研究を踏まえ九つの命題を設定し、その命題が妥当であるかを検討する。婚前性行動に対する許容度についての質問項目は、善積京子氏(1986)の調査尺度を用いた。分析にはSPSSを用いた。

<結果>[性差]の命題は、一部の項目で当てはまるが、全体的に見ると有効とは言えず、大学生男女間の性意識に大きな差は存在していない。「性交目的」を「肉体的・物質的」充足と、「精神的」充足の二つに分類すると、男女で高い水準の有意差( $p < 0.001$ )がみられ、男子は性交に「肉体的・物質的」充足を、女子は「精神的」充足を意図していることがわかった。女性は、性の領域を恋愛や結婚の中に包み込もうとする傾向が強いとされていたが、男女ともに性と結婚の結びつきが弱いこと、依然として、女子は性に恋愛を重視することがわかった。